

問題はつぎのページから始まります。

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 サトウの取りすぎには注意しなければならない。
- 2 友人からの提案を前向きにケントウする。
- 3 大統領のスピーチをツウヤクする。
- 4 美術館にテンジされた絵画を鑑賞する。
- 5 学校図書館の蔵書を確認する。
- 6 車窓から見える景色に感動する。
- 7 干潮の時刻をチェックして釣りに出かける。
- 8 学校の沿革について校長先生が話をする。

問二 矢印の方向に読める二字熟語ができるように、□に適当な漢字を書きなさい。

【例】親↓□→約
機→□↓室 (答え:「密」)

1 国↓□→来
出→□↓族

2 学↓□→性
風→□↓字

3 構↓□→学
序→□↓字

4 無↓□→恵
通→□↓識

5 留↓□→護
保→□↓備

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

朝起きて、幼稚園に出掛ける前の時間、私は下駄を履いて庭を歩いていました。たいして広くもない庭に霜柱が立って、真つ黒な土の上を踏んで歩くと下駄の跡がついて、それがおもしろいので、一人で歩き回っていました。今から半世紀も前のことです。

小さなものが、黒い土の中から顔を出しているのです。私はびっくりしました。「なんだろう?」と思ってドキドキしました。私が驚いたのは、それがあまりにも美しかったです。

それは「水仙すいせんの芽」でした。

曰

私にはその正体が分かりません。もちろん、その以前から私は花が好きでした。「花Ⅱきれいなもの」

土の中から出てくる「光り輝く緑の指のようなもの」を見ることが、それ以来、私の朝と昼と、それから暇さえあればいつでも、日課のよう^④になっ
てしまっていました。

- 3 -

「きれい」と思うことと、「これが自分だったらいいな」と思うことが、いとも簡単に一つになってしまふのです。

もうすぐ六歳さいになろうとする五歳の私は、自分のことをそんなにも美しいものだとは思っていません。だから、「これは自分だ」と思うことはためらいがあります。だから「これが自分だったらいい、自分がこんなにも美しいものであったらいい」と思うのです。その水仙の芽は、五歳の私にとって「希望」という言葉の持つ輝きと同じ質の美しさをもっていました。

と

、五歳の私は「希望」などという言葉はまだ知ってはいませんでした。その言葉を知っていたのなら、「希望というのは緑色に輝くもので、地面の中から生えてくるものだ」と解釈かいしゃくしてしまっていたでしょう。

（人はなぜ「美しい」がわかるのか 橋本 治）

問一 ――線部①ゝ④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 空欄

I

ゝ

IV

 にあてはまる語句として適切なものを次のアゝオから選んで記号で答えなさい。

ア まるで イ でも ウ もちろん エ だから オ すると

問三 空欄「 A 」に当てはまると言葉として最も適切なものを次のアゝエから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 母の日 イ こどもの日 ウ ひな祭り エ 中秋の名月

問四 ――線部B「半世紀も前」とありますが、どのくらい前のことですか。次のアゝエから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 十年前 イ 二十年前 ウ 五十年前 エ 百年前

問五 ——— 線部C「それ」とは何のことですか。本文中より四字でぬき出して答えなさい。

問六 ——— 線部D「私の知る花の美しさとは全然質の違ちがうものでした」とありますが、それはどのような美しさですか。「美しさ」につながるように本文中より十九字でぬき出して答えなさい。句読点や記号も字数に数えます。

問七 空欄「 E 」に入る言葉として最も適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 浦島太郎が乙姫からもらった玉手箱を開けた時
- イ 竹取りの翁おきながかぐや姫ひめの入っている竹を見つけた時
- ウ 桃太郎が鬼退治をして鬼ヶ島から財宝を持って帰った時
- エ 一寸法師が鬼の持っていた打出の小槌で大きくなった時

問八 ——— 線部F「『これが自分だったらいいな』と思いました」とありますが、筆者はどういった理由でこのように思ったのでしょうか。本文中の言葉を使って四十五字以内で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使いなさい。句読点や記号も字数に数えます。

五歳 ・ 美しいもの ・ 「これは自分だ」

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「暗くてよく分からないかもしれないけど、この町って、すり鉢すりばちみたいな形をしてるんだ。向こうの山と、いまあたしたちのいるこっちの山が緩やかに繋がつながっていて、その中にあるの。あの辺りの光の集合体は、すり鉢の底かな」

晴子の喋り方は、耳に優しい。雑音なく伝わる。うん、と頷うなずいた。何となくイメージが湧わく。

「おばあちゃんはね、ここは少し大きな水槽なんだよって言ったの。この町は水槽だって」

頭の中のすり鉢が、自分の家の玄関に置かれた金魚鉢にすり替かわった。金魚鉢の底には色とりどりのビー玉が沈しずんでいる。あの幾つもの光はビー玉の輝かがやきなのだと思えてくる。

「そしておばあちゃんは、私は晴子のチョコレートグラミーになってあげるからねって言ったの」

「マウスブルーダーって、こと？」

晴子①が目をぱちくりさせた。俺おれが知っているとは思わなかったらしい。あれから調べたんだ。どこが晴子と似てるのになって思ってた。親が口の中で稚魚ちぎよを育てて外敵から守る魚だって、ウィキペディアに書いてた。そう言うところ、そういうところが頭がよくなる理由なのかなと感心したように晴子は頷うなずく。

「俺、※あのとき晴子は卵から孵かえったんだと思ってた。でも、ちよつと違ちがった。晴子はずっと、烈子ばあちゃんの口の中にいたんだな」

晴子が、笑う。頬ほおに優しい窪くぼみができる。

「おばあちゃんが、この世界からあたしを守ってくれた。あたしを捨てたお母さんから、騒さわぎを馬鹿にする世間から、全部から」

晴子が夜空を見上げる。それから、まるで昔話をするような口調でそうつと続けた。

「この水槽の中で哀かなしい思いをしないように、辛い思いをしないように、私が守ってあげる。焦あせらなくていいんだよ。あんたのペースでいい。いつか自分で旅立てると思えるその日まで、私の中にいたらいんだよ」

ああこれはきっと、烈子さんの言葉だ。烈子さんは何度となく、晴子に言って聞かせたんだろう。俺の知っている烈子さんの口調じゃないけれど、

そう思った。

そして同時に、子どもを怒鳴り散らしていた烈子さんを思い出す。晴子を泣かせる奴はこの私が容赦ようしやしないからね！ 絶対に、いじめるんじゃない

いよ！

「おばあちゃん、認知症になつたいまも、あたしを守ってくれてるんだよ。晴子は渡さない、晴子を殺そうとしたあんたは死んでも許さないってあたしに向かって怒鳴って、暴れるの。あたしはお母さんじゃなくて晴子だって何度言っても、分かんないんだよ。呆れちゃう」

晴子の声が少しだけ潤む。

「おばあちゃんの愛情って、『普通』とは少し違うんだろうね。ひとから悪く言われる部分もあるんだと思う。でも、あたしはその愛情のお蔭で幸せに生きて来られた。誰にどう言われても、あたしはそれに感謝したい」

泣きそうな晴子に引きずられたせいなのか、それとも別のひとの面影がよぎったせいなのか、鼻の奥がツンと痛む。同時に喉の奥からこみ上げてきた熱いものを押し込めるために、おにぎりの残りを全部口に押し込んだ。げげげと噎せ返ると、晴子がすぐに紙コップを差し出してくれる。

「ご、ごめん。ありがとう」

苦しきのせいで、涙目になる。晴子は、美味しそうに食べてくれて嬉しいよ、とおどけたように言った。

③ 一息ついた後、ふたりで寝ころんだ。星が幾つもの煌めいていて、その中に夏の大きな三角形を見つける。晴子に教えると、教科書通りだねと指先で星を辿った。

それからしばらく無言で眺めていると、晴子がそろりと喋りはじめた。あたしはこれから、おばあちゃんの口の中から出て、ちゃんと生きていく。だけどさ、啓太くん。難しいね。生きていくって、難しいよ。

ああ、難しいよな。俺も、難しいって思う。しんどいって時々思うし、ムカつくこともある。世の中って、どんどん難しくなっていってる気がする。でもそれが晴子の言う、世界に出るってことなんだろうな。

ああ、そっか。そういうことだね。さすが、啓太くんはこの世界でちゃんと泳いでるだけあるね。

どうだろうな。ちゃんと、ではないと思うよ。

そんなことないよ。あたしには、啓太くんがとても眩しいよ。そんな啓太くんが辛くても泳いでいるんだったら、あたしも泳がなくなっちゃいけないって思うもの。

ゆっくりと紡がれる晴子の声が、俺の心が、こぼりこぼりと気泡のように夜空に溶け込んでゆく。だんだんと、自分が水槽の中で揺蕩う魚になった錯覚に陥る。ビー玉や水草の間で揺らぎながら、生まれては消える水泡を眺めている、そんな感じ。

「この水槽の向こうにはもつとたくさんのお水があるんだよね。水槽どころか、池も川も、海だってある。いちいち怖^{こわ}がってたら、生きていけない。あたしたちはこの広い世界を泳がなきゃいけない」

こぼこぼ。こぼこぼ。柔らかな音の向こうに、縞^{しま}模様の入った栗色^{くりいろ}の魚が泳ぎ始める。魚は星屑^{ほしくず}の散らばる夜空を旋回^{せんかい}し、星の描^{えが}く三角形を潜^{もぐ}っていった。ゆっくり、ゆっくりと。

(町田そのこ『夜空に泳ぐチョコレートグラミー』)

※あのととき晴子は卵から孵^{なぐ}ったんだと思ってた

晴子がクラスメイトの田岡を殴^{なぐ}りつけたときのこと。クラスメイトの田岡は烈子おばあちゃんに対する文句をひどい言葉で何度も晴子にぶつけていた。晴子は何を言われても自分の意見は言わず、無表情で無反応を通していった。しかし、夏休みに入る少し前、しつこく言ってきた田岡を晴子は突然殴^{なぐ}りつけて周囲を驚かせた。啓太は驚きつつも、田岡は自業自得だと思い、晴子にはそんなことができたのかと感動していた。

問一 ―――線部①③の本文中での意味として最も適切なものをそれぞれ後のア～エから選んで記号で答えなさい。

① 「目をぱちくりさせた」

ア 思ってもいないことに驚いた	イ 涙が出そうになったのを我慢した
ウ 信じられないことで不信感を抱いた	エ 気持ちを伝えようと目で合図を送った

② 「おどけたように」

ア 落ち着かせようとゆっくり	イ 突然のことにびっくりした様子で
ウ ふざけた様子で冗談 じょうだん っぽく	エ 心の底から嬉しそうに

③ 「一息ついた」

ア 深呼吸をして落ち着かせた	イ がっかりしてため息をした
ウ もうひと頑張りした	エ 一休みをした

問二 ―――線部A「マウスブルーダー」とは何のことですか。本文中より十九字でぬき出して答えなさい。

問三 —— 線部B「俺の知ってる烈子さんの口調」とありますが、次にあげた本文中で述べられている烈子さんの言葉の中で、その口調で述べられた言葉を次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア ここは少し大きな水槽すいそうなんだよ

イ 私は晴子のチョコレートグラミーになってあげるからね

ウ この水槽の中でかな哀しい思いをしないように、辛い思いつらをしないように、私が守ってあげる。

エ 晴子を泣かせる奴やつはこの私が容赦ようしゃしないからね！

問四 —— 線部C「あたしはそれに感謝したい」とありますが、晴子は何に感謝したいと言っていますか。「誰の」「どんな」の説明を加えて二十字以内で答えなさい。

問五 —— 線部D「夏の大三角形」とありますが、「夏の大三角」について説明したものとして適切なものを次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

ア うしかい座のアルクトゥールス、おとめ座のスピカ、しし座のデネボラを結んでできる三角形。

イ こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブを結んでできる三角形。

ウ オリオン座のベテルギウス、おいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを結んでできる三角形。

エ おおぐま座の胴体からしっぽにあたる部分にある七つの星で、ひしゃくの形をしている。

問六 ――線部 E 「おばあちゃんの口の中から出て、ちゃんと生きていく」とありますが、それはどういうことでしょうか。それを説明したものと
して最も適切なものを次のア～エから選んで記号で答えなさい。

- ア 認知症になったおばあちゃんのもとを離れて、お母さんと暮らすために他の場所へと行くこと。
イ おばあちゃんのいるこの町を離れて、他の町で一人暮らしをして生きていくということ。
ウ おばあちゃんに守ってもらっていた状態から、つらい思いをしても自立して生きていくこと。
エ おばあちゃんの口の悪さから解放されて、誰にも文句を言われずに生きていけるということ。

問七 ――線部 F 「この水槽の向こうにはもっとたくさんの水槽があるんだよね」について次の質問に答えなさい。

- (1) 「水槽」とは何のことを意味していますか。
(2) また、この表現からは、その「水槽」がたくさんあることに対して晴子はどのように感じていると考えられますか。

問八 本文中の「来られた」と同じ意味・用法の「来られた」を使って短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず使いなさい。また、本文の語句や文を利用しただけの解答は不正解とします。